



特集 歴史のなかの町並みと建造物

飯田・下伊那には、古い時代の建物や町並みがたくさん残っています。歴史研究所では、今年度、地域に残る歴史的建造物の保存や利用をめざして、さまざまな企画を行います。

歴史的建造物に関する取り組み

歴史研究所では、伊藤毅顧問研究員（東京大学教授）の指導のもと、飯田・下伊那に残る歴史的建造物の実測調査を行い、保存・利用といった問題に取り組んでいます。対象となる建物の種別は様々で、本棟造や戦後の民家をはじめ、寺院、神社、洋館に至ります。これまでは特に取り壊しなどの急を要する建物を中心に調査してきました。その成果は『飯田市歴史研究所年報』に報告しています。

歴史的建造物とは

過去の歴史を紐解く上で歴史的資料となるものは、古文書、古写真、古絵図などがありますが、歴史的建造物もその一つです。ある一つの建物を、いつ、誰が、なぜ、どのような経緯をもって建てたのかを調べることによって、当時の文化や風習、近隣との交流関係、さらに現代に至るまでの歴史の流れを知ることができます。特に建物は実際に目で見て歴史を感じ取りやすい特徴があります。建物を通して当時の思い出がよみがえることもあるでしょう。

今に残る歴史的建造物は、戦災や日々の災害、戦後の高度成長期の取り壊しの運命など、数々の難を乗り越えてきました。しかし、こうして生き残った建物にも、さらに老朽化といった新しい試練が生じています。それが江戸末期から明治期に建築された建物であれば100年余りを経過したちょうど今なのです。「数年前まではここにあったのに」と変わりゆく風景を惜しむ方もおられると思います。そうした窮地にあるため、早急な保存活動や調査記録が必要になっています。

歴史的建造物の保存・活用

建物保存といっても、いろいろな手法が考えられます。もちろん建物をそのまま保存することも大切ですが、利用してこそ価値のある建物もあります。改修工事を行い、利用されることにより、新たに息を吹き返した建物もあります。また部材を新たな建物に転用することにより、いわば遺伝子を継承した例もあります。

『地域史研究集会』の課題

8月26日(土)・27日(日)に開催する今年度の地域史研究集会では、建築という分野を取り上げ、「歴史のなかの町並みと建造物」というテーマを掲げることにしました。

記念講演として、日本を代表する建築家の安藤忠雄さんをお迎えします。最近では東京青山に「表参道ヒルズ」を手がけておられますが、敷地に以前建っていた同潤会アパートを一部復元した設計が行われています。作品を通して古い建物を残し今によみがえらせる手法や意義をお話いただき、あわせて地域再生・創造のためどのようなコンセプトやランドデザインがありうるのか、ということにも言及していただければと考えています。

また、長野県や飯田市の文化財審議委員である吉澤政己さんにも報告していただきます。長野県の文化財に関して長年携わっておられる吉澤さんには、専門家の観点から歴史的建造物や町並みのあり方について伺います。

地元からは建築家である新井優さんと木下光さんにもお話を伺います。飯田・下伊那の風土や景観に沿った材質選びや設計、改修工事などの事例をお見せいただき、建物の可能性を探っていただきます。

歴史研究所からはこの春着任の研究員金澤が今までの調査報告に加え、今後の歴史的建造物の調査研究の目的や、飯田・下伊那の建築の魅力をお話します。

歴史的建造物の今後のあり方や飯田・下伊那の地域再生について意見を交わす場となることを期待して、皆様のご参加をお待ちしております。



旧 飯田測候所建物 (市内 馬場町)

第1講座

「西洋事情」と日本

講師:近藤 和彦さん(東京大学教授)

17世紀から19世紀までの西洋と日本は、違いが際立ちます。江戸時代の日本が比較的安定し成熟していたのに比べると、同じ200年あまりの間にヨーロッパ・アメリカは大変貌をとげます。1600年ウィリアム・アダムズが日本に来たころ、1861~62年福沢諭吉がヨーロッパを訪れたころでは、世界史は大きく変わりました。しかし、近代の国民国家が形をととのえる19世紀後半に、実は今日のG8諸国はそれぞれ似たような問題を抱えていました。日本近代史の始まりと西洋近代史の同時代性を考えます。

■時間

1日目(土) 13:30~17:00

2日目(日) 10:00~14:30

※90分の講義を4回、2日間にわたって行います。

■会場

飯田市歴史研究所(飯田市上郷支所庁舎)
3F会議室

■募集人員 各講座30人

■受講料 資料代として500円(2日間分)

※2日目の昼休みには、講師を囲んでの昼食交流会を行います。(会費1,000円)

■お申込方法 電話、ファクシミリまたはEメールで、

飯田市歴史研究所へお申し込みください。

※ファクシミリまたはEメールでのお申し込みは、住所・氏名・電話番号を明記してください。

6月17日(土)
18日(日)

第2講座

20世紀日本の農民と農村

講師:森 武磨さん(一橋大学教授)

20世紀の日本農民と農村の歩みを概観します。とりわけ日露戦後から高度成長までを対象とします。下伊那地方の農村社会の変動を事例としながら、全国における下伊那地方の位置を考えたいと思います。とくに日露戦後の地方改良運動、大正デモクラシーと農村振興、昭和恐慌と農村経済更生運動、総力戦と満洲移民、戦後改革と新農村建設をテーマとして講義します。

[参考文献] 西田美昭 アン・ワズオ編『20世紀日本の農民と農村』東京大学出版会、2006年。

7月15日(土)
16日(日)

第3講座

9月16日(土)・17日(日)

歴史を活かしたまちづくり

講師:西村幸夫さん(東京大学教授)

飛騨古川、函館、舞鶴、石見銀山など、歴史を活かした魅力的なまちづくりの実践事例を紹介し、自分たちのまちでもまちづくりを展開する手がかりを考えます。

講座
予告

第4講座

12月16日(土)・17日(日)

タイトル未定(都市史・建築史に関する講座)

講師:陣内秀信さん(法政大学教授)

6月の月例研究会

月に1度、研究所員が研究内容を報告し、参加者が自由な意見交換をする研究会です。事前の申し込みは不要ですので、気軽にご参加下さい。

■報告テーマ 「日本の民家と本棟造」

■報告者 金澤雄記研究員

■日時 6月24日(土) 午後2時~4時

■場所 歴史研究所研修室

※7月の月例研究会はお休みです。

日本の民家は風土や産業を背景とした地方色豊かな建築です。信州にも「本棟造」と呼ばれる独特の形式の建築があります。日本の代表的な民家を紹介して本棟造との比較を行うとともに、現在調査を行っている本棟造の民家を取り上げ、その特徴や魅力をお話します。

歴史研究活動を助成します 申請研究募集!

歴史研究所では、飯田・下伊那の素材を用いた、歴史研究活動を助成します。ぜひご応募ください。

◆対象とする専門分野 歴史関係全般

◆応募資格

○飯田市内・下伊那郡内に住所を有する個人または団体

○大学の卒業論文・修士論文を作成するための研究を行う者

◆助成金額

○市民・郡民および卒業論文 10万円以内

○修士論文 15万円以内

◆申請手続

○提出書類 研究計画書

○提出期間 2006年7月8日(土)まで

◆助成の条件

○飯田・下伊那地域の素材を用いたオリジナルな歴史研究の成果であること。

○新たに得た史料所在情報については、研究所に提供すること。

○研究成果の発表を、所定の時期に研究所で行い、併せて研究所の刊行物を通じて公表することを原則とすること。

◆審査方法 歴史研究所研究部が行う。

◆研究論文等の提出

研究論文等完成後、速やかに(2007年2月まで)論文等の複製を研究所に提出する。ただし、修士論文について、研究の初年度の場合は、中間報告書を2007年2月までに提出する。

◆助成金の交付

助成金の交付は、助成の条件などに関して必要な審査を行い、交付することが適当と認められたものについて、2007年3月までに行う。

※募集の詳細については、直接お問い合わせいただくか、歴史研究所のホームページをご覧ください。

リレーエッセイ

かつていくども訪れた飯田で、 ふたたび仕事ができる喜びをかみしめています。

飯田をはじめて訪れたのは信州大学文理学部に在籍していた頃、信州出身の友人らと行をともした、飯田から木曾谷へのエクスカージョンです。広い通りと、まだ大きくなかったりんごの並木が記憶に残っています。

本格的に飯田を訪れるようになったのは、もう四半世紀になりますが、城西大学に勤務していた頃、横浜開港資料館の資料調査に同行して以来です。当時、横浜市史の受け皿として資料館の開設準備をすすめており、私にも同行せよ、との話でした。何軒か訪問しましたが、上郷町の原常吉家のお蔵に入れていただいたときの感激は今もなお鮮明に覚えています。江戸時代から昭和期にいたる大量の資料が、状態もよく残され

上山和雄（うえやまかずお
顧問研究員・國學院大學教授）

ていました。以後、なんとか関係資料を調査・収集するため、当地を訪れました。それから十年ほど訪れることはなかったのですが、研究所立ち上げに際し、お手伝いをするようになりました。

飯田・下伊那には本当に多くの歴史的資料が残されています。その資料の量・質は関東地方と比較になりません。まさにこの地に住んだ先人たちからの豊かな贈り物でしょう。この資料に光を当て、ここに生きた人々の生活や意識を明らかにしていかねばなりません。こうした事業はすぐに役立つことではありませんが、しかしこの地域の、ここに住む人々の、現在と将来を考える重要なよすがになるに違いありません。

「丘の上」における史料所在調査の成果と課題



月例研究会レポート



写真アルバムや商家の史料
持ち主の方からご連絡いただき、
所在を確認できました。

多和田 雅保（たわだ まさやす・研究員）

一丁目の商家の史料と、飯田藩士による藩政史料が出てきました。

近現代史料については、20世紀初頭の伝馬町二丁目の魚卸商の帳簿がたくさん出ました。またそのお宅は戦後本町一丁目で卸問屋を営み、松尾の卸売団地に移転する以前の営業空間や商売の様子が分かる写真が大量に見つかりました。また桜町のカフェの中の様子、それから桜町や伝馬町の大火前の町並みの鮮明な写真も出ました。

明治末年にお生まれになった方からも御連絡をいただき、大正時代の飯田町の様子について貴重な証言を得ることができました。こちらについては、さらに聞き取り調査を進めていきたいと思っています。

今後所在調査を継続するにあたっては、やみくもに古い歴史情報に限定して探そうとするのではなく、現在調査の対象となる家や地域がどのような問題を抱えているのかをよく聞き、それに基づいてこちらの問題関心を深めていきたいと考えています。

歴史研究所では昨年度から、基礎共同研究の一環として、橋北・橋南・東野地区をかわきりに、史料の所在調査を始めました。この地区は移り変わりが大変激しいため、急いで調査する必要があります。と同時に世帯数が多く、社会の仕組みも複雑なので、今後も引き続き取り組む予定です。それでもこれまでに貴重な史料をいくつか見つけることができました。

近世史料については、「飯田大火」の影響もあり、この地区で新たに発見することは困難ですが、今回桜町

歴研ゼミだより 4月・5月の内容

参加者のみなさんと一緒に歴史の研究を行い、研究方法を学んでいただくための講座です。

近世史 ゼミ	4月11日	ガイダンス	■テーマ	近世下伊那の民衆生活史
	5月9日	「阿島村傘問屋宛庭銭・改印等定」	■開催日	隔週火曜日
	5月23日	史料所在調査の方法について	■時間	午後7時～8時40分
近現代史 ゼミ	4月13日	報告「ミチューリン農法」	■担当	多和田雅保(研究員)
	4月27日	同上	■テーマ	地域社会史入門～飯田町の記憶を探る
	5月11日	聞き書き調査の反省と次期計画	■開催日	隔週木曜日
	5月25日	古島敏雄著『台所用具の近代史』を読む	■時間	午後7時～8時40分
現代史 ゼミ (英語文献講読)	5月10日	Introduction はじめに	■担当	田中雅孝(調査研究員)
	5月24日	Nationalism and globalization ナショナリズムとグローバリゼーション	■テーマ	地域社会とグローバリゼーション
			■開催日	隔週水曜日
			■時間	午後7時～8時30分
			■担当	鬼塚 博(研究員)

★各ゼミとも歴史研究所研修室で行っています。お気軽にご参加ください。
★今後の日程については、次頁の「6月・7月のスケジュール」をご覧ください。

新スタッフ紹介



金澤雄記 (かなざわ ゆうき・研究員)
 建築学専攻。1979年広島市生まれ。
 広島大学大学院修士課程修了、東京
 大学大学院博士課程単位取得退学。

はじめまして。建築史を担当します。3年間東京大学伊藤毅教授のもと、飯田での歴史的建造物調査を行い、この春研究員として着任しました。日本建築史を専門とし、主に城郭を研究しています。信州は上質な木材が手に入るため、立派な建物がよく残っています。とりわけ本棟造と呼ばれる建築は、風土に適した優美な意匠の建築で心魅かれました。また大平宿に登ったときは途中の山道もさることながら、人里離れた山中の、集団移住で瞬時に人口がゼロになった町並みということで、同じような経緯を持つ長崎の軍艦島を思い出し興味を覚えました。大平宿は今でもいろいろな行事で利用されているということで、よい活用事例だと思います。建物は利用されてこそ価値がありますので、歴史的建造物の学術的な調査と評価だけでなく、その後の活用に関しても取り組んでいきたいと思っています。地域に貢献できる研究を行いたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

歴研日誌

4月

- 1日 金澤新研究員着任
- 11日 近世史ゼミ
- 12日 座光寺史料調査
- 13日 座光寺史料調査
近現代史ゼミ
- 18日 美術博物館長との調整会議・研究部会議 (於東京大学)
- 20日 山本支所所蔵文書所在調査
- 26日 座光寺史料調査
- 27日 座光寺史料調査・近現代史ゼミ



県史料協講習会

絵図資料の写真撮影



5月

- 9日 近世史ゼミ
- 10日 現代史ゼミ
- 11日 座光寺史料調査
近現代史ゼミ
- 13日 月例研究会「『丘の上』における史料所在調査の成果と課題」(多和田研究員)
- 16日 学芸員、司書及び研究員の合同会議(於美術博物館)
- 17日 伊賀良支所家族計画資料移管
「6月1日に風越山を撮ろう実行委員会」から関係資料の寄贈
- 18~21日 代田家住宅実測調査
- 22日 塩澤家住宅実測調査
- 23日 長野県史料保存活用連絡協議会総会・講習会(於歴史研究所)
近世史ゼミ
- 24日 現代史ゼミ
- 25日 座光寺史料調査
近現代史ゼミ
- 29日 松戸市中井家史料調査
- 30日 資料集『時報・村報にみる「満洲」移民』発行
- 30日~6月1日 絵図資料の写真撮影

6月・7月の催事スケジュール

6月	2006	7月
木	1	土
金	2	日
土	3	月
日	4	火 近世史ゼミ
月	5	水 現代史ゼミ
火 近世史ゼミ	6	木
水 現代史ゼミ	7	金
木 近現代史ゼミ	8	土
金	9	日
土 研究会「伝統社会と地域」	10	月
日	11	火
月	12	水
火	13	木 近現代史ゼミ
水	14	金
木	15	土 アカデミア
金	16	日 アカデミア
土 アカデミア	17	月
日 アカデミア	18	火 近世史ゼミ
月	19	水 現代史ゼミ
火 近世史ゼミ	20	木
水 現代史ゼミ	21	金
木 近現代史ゼミ	22	土
金	23	日
土 月例研究会	24	月
日	25	火
月	26	水
火	27	木 近現代史ゼミ
水	28	金
木	29	土
金	30	日
	31	月

開所日 開所時間 午前9時~午後5時
 休所日 休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日~1月3日